

特別講座 「三岸節子、人と作品」



《さいたさいたさくらがさいた》1994～1998年
一宮市三岸節子記念美術館蔵 ©MIGISHI



《朝鮮取材》1940年 堀美術館蔵 ©MIGISHI

洋画家・三岸節子(1905～1999)は、愛知県中島郡小信村(現・一宮市)に生まれました。

三岸節子は、溢れる才能を煌めかせた画家・三岸好太郎の影響を受けながら、その早逝(1934年・享年31歳)後に独自の道を歩み、独立美術協会展や小磯良平らが結成した新制作派協会(現・新制作協会)展に室内画を発表しました。戦時下の厳しい状況の中でも懸命に制作を続けて、終戦翌月に東京では戦後の初となる個展を開催しました。1950年代には、薰り高い色彩と華麗な造形を融合させた卓上の静物画が人気を博して、第1回サンパウロ・ビエンナーレや第8回サロン・ド・メに出品するなど、日本を代表する画家の一人として高く評価されました。1954年に初めて渡仏、ヨーロッパ風景に見せられるとともに日本文化を再発見して、帰国後は開かれた空間のなかに埴輪や鳥・魚・花、そして神奈川県大磯町転居後には太陽といった新たなモチーフを配した作品に取り組むようになり、日本国際美術展や現代日本美術展などで活躍しました。1968年に再渡仏、南仏カーニュに居を構えると、ヴェネチアやブルゴーニュなどの風景に取り組んで、深味のある色彩と力強い造形による独自の風景画を完成させました。1989年の帰国後は大磯のアトリエで制作を続け、1999年に94歳で亡くなりました。

三岸節子の生涯にわたる芸術の軌跡をご覧ください。



《静物(金魚)》1950年 東京国立近代美術館蔵 ©MIGISHI

日 時：令和8年9月26日(土)

13時30分～15時00分

場 所：神戸市立灘区文化センター 5階 会議室E

講 師：金井 紀子(神戸市立小磯美術館 学芸員)

受講料：無料

定 員：40名(先着順)

申込み：8月27日(木) 9時より

窓口、電話及びQRコードにて

神戸市立灘区文化センター

電話 078-841-1711

神戸市灘区深田町4丁目1番39号



《室内》1939年 一宮市三岸節子記念美術館蔵 ©MIGISHI